

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和4年11月10日（木）

2 確認箇所

既設アウターライズ津波防潮堤（4号機東側、4号機南側）

3 確認項目

日本海溝津波防潮堤の設置状況

4 確認結果の概要

令和2年4月、内閣府「日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデル検討会」が日本海溝津波の発生が切迫していると評価したことを踏まえ、東京電力では、T.P. 11.8m規模と想定される日本海溝津波に対応する、日本海溝津波防潮堤の設置を進めている。

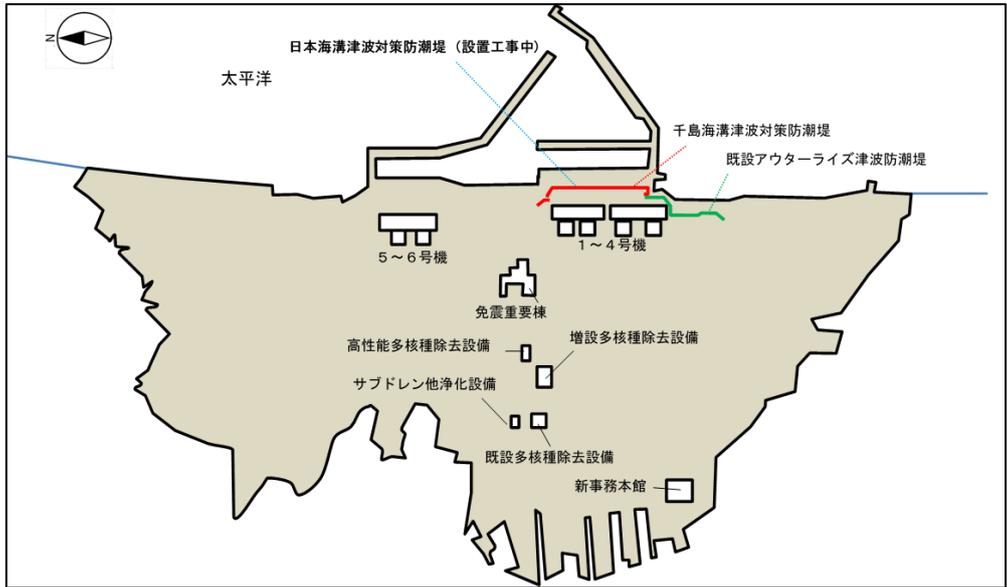
本日は、日本海溝津波防潮堤工事の一部として、4号機東側から南側において、既設アウターライズ津波防潮堤^{※1}に対して行われている法面補強の状況を確認した。（1～4号機東側における日本海溝津波防潮堤工事の確認：[令和4年8月10日](#)）（図1）（写真1）

- ・4号機タービン建屋南東側では、フレキシブルコンテナバッグが積み重ねられている状態であった。（写真1）
- ・4号機南側ではアウターライズ津波防潮堤としてフィルターユニット^{※2}が積み重ねられており、法尻部に置かれていたフィルターユニットが撤去され、法面補強として法尻部へアッシュクリート^{※3}打設が進められていた。（写真2）
- ・東京電力では、日本海溝津波防潮堤の本体を既設アウターライズ津波防潮堤の上部に設置する予定としており、日本海溝津波防潮堤を令和5年度中に完成させるとしている。（写真3）

※1 アウターライズ津波防潮堤：東日本大震災の震源域より東側の「アウターライズ」と呼ばれる海底を震源とする地震が発生すると想定される津波がアウターライズ津波であり、福島第一原子力発電所ではT.P. 4.1mの高さが想定されている。アウターライズ津波防潮堤は仮設防潮堤として2011年6月に設置された。

※2 フィルターユニット：網の袋に石やコンクリート塊などを詰めたものであり、河川護岸や海岸の根固め工、橋脚の洗掘防止等に用いられる。

※3 アッシュクリート：石炭灰とセメントを混合させた人工地盤材料。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1)
4号機タービン建屋南東側のフレコンバッグの状況



(写真2)
4号機南側におけるアウターライズ津波防潮堤の法面補強の状況
(南東側から撮影)

アウターライズ津波防潮堤

法面補強部



(写真3)

4号機南側におけるアウターライズ
津波防潮堤上部の状況

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。